



チャートは未来予想図！？ ローソク足を知ろう



コロナの収束が見えたような見えないような…。いや、実はもう一段下げが待っているのではないかなどと株式相場に対して疑心暗鬼な今日この頃。そんな時はチャートを頼りに相場へ取り組んでみるのも1つの方法である。

【ローソク足とは？】

ローソク足は昭和の初期に開発されたもので、その形からローソクの名がつけられた。正式な名称は「陰陽足」。先行き不透明な相場の「案内灯」とも考えることができる。その日の最初の値段を「始値」、最後についた値段を「終値」、その日の一番高い値段が「高値」、逆に一番安い値段が「安値」である。

始値と終値を結んで四角に囲めば、いくらで始まって、いくらで終わったのかがわかる。四角が白ければ「陽線」で、始値より終値の方が高かったことを表す。逆に黒ければ「陰線」となり、始値より終値の方が安かったことを表す。

簡単に言えば陽線は「強い」、陰線は「弱い」線である。では、始値と終値が一緒の時はどう読めばいいのか。相場に勢いが無い、つまり迷っている。ということになる。

ポイント！ 白は上向き、黒は下向き。四角の幅が大きいとその勢いも強い。

ローソク足にはヒゲがつくことが多い。このヒゲがつくことでローソク足はそれぞれ個性を持つことになる。ヒゲの意味を整理すると、上位置に出たヒゲは「上げて、下げた」ことを意味し、下に出たヒゲはその逆である。それとヒゲの長さには「揺らぎ」が表れていることが多く慎重に見ておく必要がある。

ポイント！ ヒゲが決定的な変化を示すこともある。

【ローソク足の基本形】

(1) 大陽線・大陰線実体の長い足である。白いのが大陽線。黒いのが大陰線。取り敢えずは、大陽線＝すごく強い相場、大陰線＝すごく弱い相場と覚えればよい。この大陽線(大陰線)の出現自体が相場の方向転換を示すこともある。

(2) 小陽線・小陰線実体の幅が小さい(短い)ものをいう。「コマ」という相性で呼ばれることがある。実体の幅が小さいと「極小線」と呼ばれ、動きが乏しい持ち合い相場となる時にしやすい。

(3) 上ヒゲ陽線・上ヒゲ陰線上の方に長いヒゲが目立つローソク足のことを言う。下の位置にはヒゲがあってもなくてもいい。上ヒゲには投資家心理の揺らぎが感じられる、と言われ陽線であったとしても勢いに乏しく、あまり強い足ではない。

(4) 下ヒゲ陽線・下ヒゲ陰線これは③とは逆に、下位置に長いヒゲが伸びているローソク足のことを言う。上の位置にはヒゲがあってもなくてもいい。下値に抵抗感がある、下落相場の勢いが弱まってきている足である。ただ、株価がかなり上昇した時に高値圏で出ると、天井形成のシグナルになるとされるから、そこは注意が必要である。

(5) 寄引同時線始値と終値が同じ値段で、実体に全くの厚みのない線。始値のことを「寄り値」、終値のことを「引け値」と呼ぶことからきている。この線には方向性も勢いも感じられない。こうして変化が乏しくなった状態を「煮詰まる」といい、転換点とか、分岐点とする見方がある。上下にヒゲがあると「十字足」と呼ばれる。

ポイント！ ローソク足1本では不安。ただし、上記を2～3本組み合わせると確実性が増す。

 大阪・堂島の米相場の時代から使われていたと言われるローソク足。チャートが示す変兆に気づき、それに応じて冷静に対処していけば、投資による失敗のいくつかは回避できるのかも知れません。

文：晴れの国トレーダー